

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の1年目)

1. 研究課題

中国生活文化の思想史

The Intellectual History of Chinese Lifestyle and Culture

2. 研究代表者氏名

名和 敏光

NAWA, Toshimitsu

3. 研究期間

2023年4月-2026年3月(1年目)

4. 研究目的

中国の生活文化は我々日本文化へ多大な影響を与えていることは言を俟たない。その様相は共時的に各時代の日中交流と大きな関りがあり、また日中それぞれにおいても通時的に多様な変化を遂げている。本研究では、1つには様々な分野の研究者を招いて生活文化に関わる専門知識を講演してもらい、参加者で議論をすることにより学際的に班員の専門分野に新たな刺激をもたらすことを目的とする。(講演者は班員の関係者、特に若手研究者へ積極的に依頼するとともに、公募で募集することも予定している。) 2つに、1999年5月～9月に発見・発掘が行われ2020年11月に報告書が出版された沅陵虎溪山一号漢墓漢簡(以下虎溪山漢簡と略称)に調理に関わる竹簡『食方』が含まれていたことから、研読会を行い詳細に検討することを目的とする。これまで調理や食材の研究は伝世文献に基づくものだけであったが、虎溪山漢簡『食方』の発見により、漢初の調理や食材に関する新たな知見を得ることができる。

Chinese lifestyle and culture have greatly influenced Japanese culture. This aspect of Chinese lifestyle and culture is closely related to Japan-China exchanges in each period, and has also undergone various changes over time in both countries. In this study, researchers from various fields will be invited to share their expertise and lecture on lifestyle and culture. The first objective is to bring a new stimulus to the specialized fields of the group members in an interdisciplinary manner through discussions among the participants. (Speakers will be actively recruited from among the members of the group, especially young researchers, and the participation of the public will also be solicited.) The second objective of this project is to hold a reading session to examine in detail the Han bamboo script "Shifang" found in the No.1 Han Tomb in Yuanling Huxishan, which was discovered and excavated between May and

September 1999 and reported on in November 2020. Until now, research on food preparation and ingredients has been based solely on historical documents, but the discovery of the Huxishan Han bamboo script "Shifang" will provide new insights into food preparation and ingredients in the early Han Dynasty.

5. 本年度の研究実施状況

令和5年度は計10回の研究会にて計22題の研究発表もしくは講演を実施し、8回の読書会にて虎溪山漢簡「食方」の訳注検討、また茶に関する研究発表会にあわせて重要文化財の日本近代茶室遺構を含む京都大学清風荘の見学会を開催した。研究発表では飲食文化を軸とし、中でも読書会で扱う「食方」とも関連した中国古代における穀物の収穫・調製・調理の実相のほか、喫茶文化、また食と医の関連、薬物として服食される植物をめぐる文化など、大学院生を含む多分野の研究者による成果が披露された。とくに従来知られるとおり食と医（薬）は密接に関連し強く補完し合う研究領域であるが、令和5年度の研究活動により、食材と薬材、その調製・調理と調剤の工程に関する具体的な事例からそのことを再確認することができた。ほか、中国古代の贈答文化、占い、楽器・音楽など、多彩なテーマによる発表と討議により、各分野で個別に蓄積されてきた生活文化研究の成果が幅広い領域の研究者間で共有された。

6. 本年度の研究実施内容

- 2023-04-08 共同研究趣旨説明 発表者 名和敏光 山梨県立大学 贈り物の中国古代史 発表者 柿沼陽平 早稲田大学
- 2023-04-09 第1回「食方」読書会 史料の概説および今後の進め方について 発表者 名和敏光 山梨県立大学
- 2023-05-06 月の桂 発表者 池内早紀子 大阪府立大学 天回医簡からわかる漢代の医学 発表者 猪飼祥夫 猪飼鍼灸 発表者 島山奈緒子 立命館大学
- 2023-05-07 第2回「食方」読書会 「食方」訳注報告1 発表者 森和 杏林大学
- 2023-06-03 李建民氏講演会（共同研究「仏教天文学説の起源と変容」班との合同研究会）王国維与令人眷念之年……（中国語、通訳あり） 発表者 李建民 中央研究院歴史語言研究所 白鳥庫吉の学説をめぐる日本学術界の反応と王国維「二重証拠法」の形成 発表者 西山尚志 埼玉大学 座談会（中国語、通訳あり） 司会 高井たかね 人文科学研究所
- 2023-06-04 第3回「食方」読書会 「食方」訳注報告2 発表者 森和 杏林大学
- 2023-07-08 収穫から調理まで 発表者 村上陽子 防災専門図書館
- 2023-07-09 第4回「食方」読書会 「食方」訳注報告3 発表者 名和敏光 山梨県立大学
- 2023-08-05 宋代譜録にみる植物の変異に対する格物思想について 発表者 久保輝幸 横浜商科大学 酒は百薬の長一医食同源の諸相 発表者 真柳誠 茨城大学

- 2023-08-06 第5回「食方」読書会 「食方」訳注報告4 発表者 名和敏光 山梨県立大学
- 2023-09-30 「冷え」：なぜ日本人が悩むのか？—「こころ」と「からだ」の繋がり 発表者 渡邊真弓 関西医療大学 肩こりの臨床 発表者 平地治美 和光鍼灸治療院
- 2023-11-05 共同プロジェクト紹介「薬用作物栽培における課題・価値の再発見と地域社会での共有 —生産現場の当事者的・総合的理解を基盤に—」 発表者 西村陽菜 京都大学文学研究科 龔廷賢『壽世保元』『藥性歌括』に関する考察 発表者 西村陽菜 京都大学文学研究科 猫と本草 発表者 小山瞳 関西大学
- 2023-12-02 共同シンポジウム「東アジア知識人の生活文化における琴学」中国先秦時代における「楽」の実態—出土楽器の検討を中心に— 発表者 長澤文彩 東京芸術大学大学院 諸葛孔明弾琴考—虚実のはざまの音楽 発表者 早川太基 神戸大学 弾琴私見と琴演奏（西麓堂琴統） 発表者 伏見无家（靖） 東洋琴学研究所 音楽的コスモロジーの調和数理と AI 打譜における琴音の合成について 発表者 大塚一輝（公財）未来工学研究所 総合討論 司会 高井たかね 人文科学研究所
- 2023-12-03 第6回「食方」読書会 「食方」訳注報告5 発表者 伊藤裕水 山口大学
- 2024-02-02 清風荘見学会 解説「清風荘について」 発表者 奥田昭彦 京都大学清風荘
- 2024-02-03 宋代点茶の芽茶の毛（毛茸）による白色の泡の茶とその日本における展開 発表者 豊田裕章 国際日本文化研究センター 陸羽『茶経』に見える思想について 発表者 岩間眞知子 静岡県ふじのくに茶の都ミュージアム
- 2024-02-04 第7回「食方」読書会 「食方」訳注報告6 発表者 伊藤裕水 山口大学
- 2024-03-09 中国兵学における鬼神の思想史的位置 発表者 椋島雅弘 和歌山工業高等専門学校 大宰府と占い 発表者 奈良場勝 國學院大學
- 2024-03-10 第8回「食方」読書会 「食方」訳注報告7 発表者 小倉聖 大東文化大学

7. 共同研究会に関連した公表実績

- ・李建民氏講演会（「仏教天文学説の起源と変容」班との合同研究会）
日時：6月3日（土）13時～17時、於京都大学人文科学研究所大会議室（オンライン併用）。演題「王国維与令人眷念之年……」。本班班員西山尚志氏の研究報告および中国古代史研究史についての両氏の座談会を含む。
- ・共同シンポジウム「東アジア知識人の生活文化における琴学」（共催：科研費「機械学習を用いた古琴譜の識別およびAIによる自動打譜の試み」・科研費「中国古代術数学における占術と儀礼」）日時：12月2日（土）13時～17時15分、於京都大学人文科学研究所大会議室（オンライン併用）

8. 研究班員

所内

高井たかね、池田巧、野原将揮、平岡隆二

学内

成高雅 (CHENG Gaoya) (国際高等教育院)、西嶋佑太郎(人間・環境学研究科)

学外

名和敏光(山梨県立大学国際政策学部)、伊藤裕水(山口大学人文学部)、小倉聖(東京学芸大学次世代教育研究センター)、末永高康(広島大学人間社会科学研究科 (文))、塚本明日香(岐阜大学地域協学センター)、西山尚志(埼玉大学教養学部)、平澤歩(東京大学大学院人文社会系研究科)、藪敏裕(岩手大学教育学部)、劉青 (LIU Qing) (弘前大学人間社会科学部)、菊池孝太郎(大阪大学大学院文学研究科)、池内早紀子(大阪府立大学大学院人間社会システム研究科)、愛新覺羅闔和 (KAIHE) (立命館大学白川静記念 東洋文字文化研究所)、大形徹(立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所)、川浩二(立命館大学 言語教育センター)、柿沼陽平(早稲田大学文学学術院)、梶島雅弘(和歌山高専総合教育科)、小山瞳(関西大学)、島山奈緒子(立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所)、清水浩子(大正大学)、高橋あやの(大東文化大学東洋研究所)、武田時昌(関西医療大学)、奈良場勝(國學院大學栃木短期大学)、深澤瞳(大妻女子大学)、水口幹記(立命館大学文学部)、宮崎順子(関西大学)、宮島和也(成蹊大学)、宮本紗代(立命館大学)、六車楓(立命館大学)、森和(杏林大学外国語学部)、山崎 (喜多) 藍(青山学院大学文学部)、豊田裕章(国際日本文化研究センター)、永塚憲治(公益財団法人研医会)、村上陽子(防災専門図書館)、鄭宰相 (JUNG Jaesang) (円光デジタル大学)、程少軒(CHENG Shaoxuan)(南京大学文学院)、廣瀬薫雄(復旦大学出土文献与古文字研究中心)、高潔 (GAO Jie) (南京大学文学院)、平地治美(和光鍼灸治療院・漢方薬局)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
人文研所属 (内女性)	1	3	0	0	0	0	29	0	0	0	0
		(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(19)	(0)	(0)	(0)	(0)
京大内 (人文研を除く) (内女性)	4	4	2	3	3	2	19	7	18	18	12
		(3)	(2)	(2)	(2)	(1)	(15)	(7)	(14)	(14)	(8)
国立大学 (内女性)	13	18	1	10	8	4	103	8	60	43	5
		(7)	(1)	(4)	(3)	(1)	(43)	(8)	(32)	(25)	(1)
公立大学 (内女性)	3	5	0	0	0	1	47	0	0	0	14
		(3)	(0)	(0)	(0)	(1)	(27)	(0)	(0)	(0)	(14)
私立大学 (内女性)	19	32	6	9	8	2	167	16	47	45	8
		(17)	(2)	(6)	(5)	(1)	(100)	(12)	(43)	(42)	(7)
大学共同利用機関法人 (内女性)	1	1	0	0	0	0	5	0	0	0	0
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)	2	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0
		(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)
民間機関 (内女性)	14	17	0	0	0	0	63	0	0	0	0
		(5)	(0)	(0)	(0)	(0)	(26)	(0)	(0)	(0)	(0)
外国機関 (内女性)	6	6	5	1	1	1	29	17	10	10	10
		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(9)	(10)	(8)	(8)	(8)
その他 ※ (内女性)	4	35	5	4	2	0	78	10	8	6	0
		(19)	(2)	(2)	(0)	(0)	(50)	(5)	(2)	(0)	(0)
計	67	123	19	27	22	10	542	58	143	122	49
		(58)	(8)	(15)	(11)	(5)	(291)	(42)	(99)	(89)	(38)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要											
鍼灸師、薬剤師、占術家、茶道師範											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	3		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載 論文数	掲載 年月	論文名	発表者名
1	治水神・禹王研究会誌 第10号	1	R5.4	禹のいくつかの属性	森和
2	漢方の臨床 70巻4～12号	9	R5.4 ～12	張仲景以前の中国医療(14)－前漢時代(六)天回医簡三	<u>真柳誠</u>
3	도교문화연구 (道教文化研究) 第58輯	1	R5.5	고대 중국의 시간과 공간 관념의 형성과 전개 - 진(辰)의 의미를 중심으로 (古代中国における時間と空間観念の形成と展開－辰の意味を中心に)	鄭宰相
4	『論道稷下 新材料、新方向下的中国文化』山東大学出版社	1	R5.5	日本明治初期的“漢学復興”熱潮——近代東亜最初の“漢学熱”	西山尚志
5	文史哲 2023年第3期	1	R5.5	日俄戦争後日本的「漢学復興」熱潮	西山尚志
6	洋学 (30)	1	R5.5	開陽丸引き揚げ文書と梅文鼎『曆算全書』	平岡隆二
7	東方宗教(141)	1	R5.6	新出の曲直瀬流の養生書『攝生之常鑑』について	永塚 憲治
8	医譚、117	1	R5.6	艶本『色道奥義極秘傳』の解題・翻刻	永塚 憲治
9	『世界漢字学会第九届年会會議論文集』世界漢字学会	2	R5.7	虎溪山漢簡札記	名和敏光
10	藤門医林、35	1	R5.7	モグサの起源植物・植物名についての一考察	<u>松岡尚則</u> , 永塚憲治, <u>別府正志</u> , <u>牧野利明</u>
11	大橋幸泰編『近世日本のキリシタンと異文化交流』勉誠出版	2	R5.7	キリシタンと時計伝来	平岡隆二

12	温知会々報 88 号	1	R5.7	出土文献による呉茱 萸と山茱萸の考証	<u>真柳誠</u>
13	吉村美香編『巫・占の異相—東ア ジアにおける巫・占術の多角的 研究』、志学社	2	R5.8	日本中世初期の都市 構造と気脈や地勢を 重視する風水思想と の関わり—平清盛の 福原・源氏将軍の大倉 御所・後鳥羽院の水無 瀬離宮—	豊田裕章
14	『「出土文献と漢字発展史」国際 シンポジウム会議論文集』清華 大学出土文献研究与保護中心	1	R5.9	虎溪山漢簡一例占術 理論與綴合	名和敏光
15	『出土文献与漢字発展史国際学 術研讨会予稿集』北京市海淀区 清華大学出土文献研究与保護中 心	1	R5.9	『十問』云柏考	大形徹
16	RADIANT [特集] 脱炭素 ISSUE21	1	R5.9	脱炭素	大形徹
17	古代文化、75(2)	3	R5.9	淡と痰と澹—古代イ ンド医学と中国医学 の交渉—	<u>多田伊織</u>
18	吉益東洞没後 250 年顕彰会記念 文集	1	R5.9	吉益東洞と江戸期の 仲景医籍研究	<u>真柳誠</u>
19	Health,15 巻	1	R5.10	A Study of Hie and LBP: The First Step to Improve Subjective Well-Being.	<u>Watanabe</u> <u>M,</u> <u>Tomiyama</u> <u>C, Nikaido</u> <u>T,</u> <u>Ryufuku</u> <u>M,</u> <u>Mandai N,</u> <u>Takeda T</u> <u>and</u> <u>Komine T.</u>
20	『「病魅:東亞視域下の醫療與鬼 邪」國際研討會 予稿集』國科會	1	R5.10	日本的讎與方相氏	大形徹

	計画「伝統中国的『魅病』論述與醫療策略」:中研院史語所生命醫療史研究室				
21	第一三回奈良県立万葉文化館委託共同研究「『万葉集』と道教・仏教・医学～超越的存在への憧憬と苦からの解放」成果報告書	2	R5.10	万葉集と水江浦嶋子 — 玉篋と魂をめぐって—	大形徹・池内早紀子・ <u>山本優紀子</u>
22	日本秦漢史研究 第24号	1	R5.11	漢人の食—虎溪山漢簡「食方」初探—	森和
23	日本漢字学会編『漢字文化事典』丸善出版	4	R5.11	文房四寶	<u>新井泰昭</u>
24	医譚、118	1	R5.12	『艷本房術龍之巻』について—『素女妙論』の江戸中後期の流通と受容について—	永塚憲治
25	中国哲学研究 第33号	1	R5.12	北宋道学の易学に見える伝統易学の世界観と近代科学的世界観の差異	<u>陳釗超著、平澤歩訳</u>
26	関西医療大学紀要 17号	1	R5.12	統合医療による「冷え」と慢性腰痛の関連の一考察	<u>渡邊真弓</u> ， <u>富山智香子</u> ， <u>武田時昌</u> ， <u>二階堂琢也</u> ， <u>龍福雅恵</u> ， <u>萬代望ら</u>
27	東洋研究 231号	1	R6.1	南宋『中興四朝国史』天文志の特徴—『文献通考』象緯考を手掛かりとして	高橋あやの
28	유학연구 (儒学研究) 第66輯	1	R6.2	시마다 초레이(島田重禮)의 「풍수설」(島田重礼の「風水ノ説」)	鄭宰相

29	日本儒教学会報 第8号	1	R6.2	劉歆の三統暦と日食説	平澤歩
30	水口幹記編『東アジア的世界分析の方法 〈術数文化〉の可能性』文学通信	3	R6.2	古代中国占術理論の検証--馬王堆漢墓帛書と銀雀山漢墓竹簡1の風占の比較	小倉聖
31	倉本一宏編『貴族とは何か, 武士とは何か』思文閣出版	1	R6.2	後鳥羽上皇や有力廷臣の笠懸などの武芸と馬場一水無瀬離宮・上賀茂社を中心に	豊田裕章
32	종교문화비평 (宗教文化批評) 45 卷	1	R6.3	근대적 학술 범주로서 풍수학의 정립—하토리 우노키치(服部宇之吉)의 〈풍수론〉(近代的學術範疇としての風水学の定立—服部宇之吉の〈風水論〉)	鄭宰相
33	万葉古代学研究年報 第22号	1	R6.3	吉野 仙境とその周辺	<u>多田伊織</u>

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名	国際共著
1	医学と儒学——近世東アジアの医の交流	<u>向 静静</u>	R5.5	人文書院	
2	京大人文研科学史資料叢書 10 養生思想Ⅱ 房中術『素女妙論』	永塚憲治編	R5.7	臨川書店	
3	『万葉集』と道教・仏教・医学—超越的存在への憧憬と苦からの解放—(第一三回 奈良県立万葉文化館委託共同研究 成果報告書)	大形徹編	R5.10	万葉文化館	

4	古漢字発展論	黄徳寛著、藪敏裕監訳、 石川泰成・宮本徹・鋤田 智彦・劉海宇・名和敏光	R5.10	樹立社	
5	中国建築と日本 田中淡著 作品集 3	田中淡著、藤井恵介・高 井たかね編	R6.2	中央公論美 術出版	
6	東アジア的世界分析の方法 〈術数文化〉の可能性	水口幹記編	R6.2	文学通信	
7	術数からみた中国兵学思想 史研究	梶島雅弘	R6.3	朋友書店	

12. 本年度博士学位を取得した学生の数

なし

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

14. 次年度の研究実施計画

令和 5 年度と同様に年間各 10 回の研究発表会および「食方」読書会を開催し、「食方」読書会では引き続き訳注の検討をおこなう。本研究班では成果論文集の刊行を目指していることから、令和 6 年度は、論文集への掲載を念頭においた、班員による論文執筆の予備発表を中心に研究発表会を実施する。令和 6 年度の具体的な発表テーマとしては、中国古代の食礼、食をめぐる民間習俗、生活中的五行説、器物の製作、書写技法などについての研究発表が決まっているほか、前漢から唐にかけての服飾文化、東アジアの玉座空間に関する発表などを調整中である。また、複数の海外在住班員がいることから、年度後半には彼らを含めた海外からのゲストスピーカーを招聘して公開ワークショップを開催し、当該分野における国際的な情報交換の機会としたいと考えている。

15. 次年度の経費

		開催回数	延べ人数	支出予定額（円）
国内旅費	一般旅費			
	招へい旅費	10	20	650000
海外旅費	一般旅費			
	招へい旅費	1	2	300000
謝金（講演謝金、研究協力者金、その他の謝金）				50000
消耗品等経費				
その他				
合計				1000000

16. 研究成果公表計画および今後の展開等

本研究班では研究期間終了の翌年度に成果論文集の刊行を目指していることから、令和6年度の研究発表会では、班員の論文執筆のための準備作業という位置づけで研究発表をおこなう。また、年度後半には海外在住班員ほかを招聘して中国古代生活文化史に関する公開ワークショップの開催を計画している。最終年度には人文研アカデミーの企画として連続セミナーか公開シンポジウムをおこない、それまでの研究成果を報告するほか、「食方」読書会で検討した訳注原稿を整理して、こちらも研究終了翌年度に、校訂テキスト、訳文、注釈を『東方学報』へ掲載する予定である。